

授業科目	基礎看護学特論 Advanced Fundamental Nursing		1・2 学年	前期	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎岡村 典子	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】	【所属】			
【到達目標】 看護学と看護実践に関する概念について、他分野の知見を含め検討し理解する。また、自己の関心のある課題に関連する概念について、他分野を含む様々な知見をもとに分析検討し定義する。							
【授業概要】 看護学と看護実践に関する概念について、他分野の知見を含め検討する。検討を通し、看護における重要性の理由を理解する。また、自己の関心のある課題に関連する概念についても、他分野を含む様々な知見をもとに分析検討する。さらに、その概念について定義する。 授業は、各自が作成した資料に基づきプレゼンテーション・討論にて進めていく。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	講義	オリエンテーション 授業の意義・学習方法の理解 文献検索方法の理解	基礎看護学特論の授業目的、内容、方法について理解する。 授業の目的に基づき、文献を検索する方法を理解する。				
2-9	講義 プレゼン 討論	概念の理解：人間、ケア・ケアリング、援助関係、コミュニケーション	「人間」、「ケア・ケアリング」、「援助関係」、「コミュニケーション」について、他分野を含む様々な知見をもとに分析し検討する。また、これらが看護学においてどのように定義できるか検討する。				
10-11	講義 プレゼン 討論	概念の理解：看護	「看護」について、書籍・文献等、幅広く探索し、概念について検討する。				
12-15	講義 プレゼン 討論	概念の検討	自己の関心のある課題に関連する概念について、他分野を含む様々な知見をもとに分析検討し定義する。				
【評価方法、評価基準】 課題資料・プレゼンテーション 50%、レポート 30%、授業への参加状況 20%							
【テキスト】 特定のテキストは使用しない。							
【参考書・資料等】 適宜紹介する。							
【受講、課題、資料配布等のルール】 初回開講時に説明する。							
【教員からのメッセージ】 授業のプロセスを通して、自己の課題を探索していきましょう。							
【オフィスアワー】 事前にメール等で日時を予約してください。							

授業科目	基礎看護学援助論 I Advanced Fundamental Nursing I	1・2 学年	通年	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎岡村 典子	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】	【所属】		
【到達目標】 看護技術の本質及び基礎的な技術の洗練過程について理解し、看護技術の科学的検証のあり方や展望について考察する。						
【授業概要】 看護技術の本質及び科学的検証をふまえた技術の洗練過程について理解する。看護技術に関する研究・文献例から、科学的検証のあり方や展望について考察する。また、看護技術適用の必須条件となる主要概念（安全、安楽、自立）を学び、看護の本質についても考察する。さらに、取り組んだ課題のプレゼンテーションを通して、自己の探求した課題に関する理解を再確認する。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1-2	講義 プレゼン 討論	看護技術における主要概念	看護技術における安全・安楽・自立の概念の検討	岡村		
		看護技術の修得過程	看護技術の修得過程			
		看護技術に関する現状と課題	看護技術を取り巻く問題と各自の関心の検討			
3-6	講義 プレゼン 討論	看護技術のエビデンス及び検証方法	看護技術のエビデンス及び検証方法について探求する ・看護技術のエビデンスの検証方法の文献検討 ・ディスカッション	岡村		
7-13	講義 プレゼン 討論	看護技術の精錬に関する各自のテーマに沿った探求 (1)	看護技術について深めたいテーマを各自が設定し、プロジェクト学習を基盤としゴールへ向けて各自が取り組む ・テーマ、ゴール設定 ・文献検討	岡村		
14-15	プレゼン 討論 まとめ	看護技術の精錬に関する各自のテーマに沿った探求 (2)	7-13 回の課題発表	岡村		
【評価方法、評価基準】 レポート 50%、課題資料・プレゼンテーション 30%、授業への参加状況 20%						
【テキスト】 特定のテキストは使用しない。						
【参考書・資料等】 参考文献・資料は、各自が検索・収集する。						

【受講、課題、資料配布等のルール】

初回開講時に説明する。

【教員からのメッセージ】

看護技術に関する理解を深めるとともに、エビデンスを明らかにする研究方法（実験研究）について探究しましょう。

【オフィスアワー】

事前にメール等で日時を予約してください。

授業科目	基礎看護学援助論Ⅱ Advanced Fundamental Nursing II	1・2 学年	通年	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 【所属】 ◎岡村 典子 新潟県立看護大学					
【到達目標】 基礎看護学援助論Ⅰにて取り組んだテーマについて、今後の展望、及び課題克服に向けた研究方法について探究する。また、看護実践における研究の必要性について理解する。						
【授業概要】 基礎看護学援助論Ⅰにて取り組んだテーマについて、今後の展望、及び課題克服に向けた研究方法について検討する。今後の展望については、対象のQOLの向上、及び看護の質向上を念頭に検討する。また、研究方法については、基本的な理解とともに、文献の講読およびクリティークを通して理解を深める。さらに、看護実践と研究の関係、及び研究の必要性について検討する。						
【授業計画】 授業計画は進行状況に応じてまた基礎看護学援助論Ⅰとの関連で若干変更する場合がある。						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1-8	講義 プレゼン 討論	基礎看護学援助論Ⅰにて取り組んだテーマについて、今後の展望を検討する	今後の展望を検討する視点 ・対象のQOLの向上 ・看護の質向上			
9-12	講義 プレゼン 討論	基礎看護学援助論Ⅰにて取り組んだテーマについて、課題克服に向けた研究方法を検討する	・取り上げた研究方法の基本的理解の確認 ・取り上げた研究方法を用いた文献の講読、クリティーク			
13-15	講義 プレゼン 討論	看護実践と研究	1-12回の内容を踏まえ、下記の点を検討 ・看護実践と研究との関係 ・看護実践における研究の必要性			
【評価方法、評価基準】 レポート 50%、課題資料・プレゼンテーション 30%、授業への参加状況 20%						
【テキスト】 特定のテキストは使用しない。						
【参考書・資料等】 参考文献・資料は、各自が検索・収集する。						
【受講、課題、資料配布等のルール】 初回開講時に説明する。						
【教員からのメッセージ】 基礎看護学援助論Ⅰにて各自が取り組んだテーマについて、さらに深めるとともに、その過程を通して看護実践と看護研究の関係について理解を深めましょう。						
【オフィスアワー】 事前にメール等で日時を予約してください。						

授業科目	基礎看護学特別演習 Seminar of Fundamental Nursing	1・2 学年	後期	選択	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎岡村 典子	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】	【所属】		
【到達目標】 国内および海外文献を精読し、看護学研究に関わる知識を修得するとともに、基礎看護学に関する研究を正確に理解し、修士論文となる研究への示唆を得る。また、自己の関心・問題意識を、研究課題へと焦点化し研究計画を立案する。						
【授業概要】 ・ 選択した論文を精読し、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等の検討を重ねながら、研究を遂行するために必要な知識を修得する。 ・ 基礎看護学に関する自己の関心・問題意識を、文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究課題へと焦点化していく。 ・ 研究課題に関する国内外の文献を包括的かつ広範に検討し、自己の研究の位置づけと意義を理解するとともに、自己の研究に適用する研究方法論を正確に理解し、研究計画を立案する。 ・ 看護学研究者としての役割を遂行するために必要な倫理的感受性を高める。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1	講義	オリエンテーション 授業の意義・学習方法の理解 研究計画書作成までの過程の理解	基礎看護学特別演習の授業目的、内容、方法について理解する。 授業の目的に基づき、講読文献を検索する方法を理解する。			
2-8	プレゼン 討論	海外文献の閲読とそのプレゼンテーション及び討論	・ 海外の研究論文（質的研究・量的研究）を正確に理解する。 ・ 文献を通して学習した内容をプレゼンテーションし、研究デザイン、概念枠組み、研究方法論等に関する視点から討論するとともに、研究を遂行するために必要な知識を修得する。			
9-14	プレゼン 討論	研究課題の焦点化と研究計画の立案	文献検討・プレゼンテーション・討論を通して、研究計画書作成までの過程を展開していく。 ・ 自己の関心・問題意識を、研究課題へと焦点化していく。 ・ 研究課題に関する用語の規定、および自己の研究の位置づけと意義を理解する。 ・ 自己の研究に適用する研究方法論を正確に理解する。			
15	まとめ					

<p>【評価方法、評価基準】 プレゼンテーションおよび討論 80%、授業への参加状況 20%</p>
<p>【テキスト】 特定のテキストは使用しない。</p>
<p>【参考書・資料等】 D. ディアラー著，小島道代他訳（1984）：看護研究 ケアの場で行うための方法論，日本看護協会出版会。 D. F. ポーリット，C. T. ベック，近藤潤子監訳（2010）：看護研究 原理と方法，医学書院。 Suzan K. Grove, Nancy Burns, 黒田裕子他監訳（2015）：バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版，エルゼビア・ジャパン。 舟島なをみ（2018）：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程（第3版），医学書院。</p>
<p>【受講、課題、資料配布等のルール】 初回開講時に説明する。</p>
<p>【教員からのメッセージ】 主体的な参加を期待します。</p>
<p>【オフィスアワー】 事前にメール等で日時を予約してください。</p>